



阪神大震災から30年 あの日を わすれない!! ～いのちと環境を守り、未来につなごう～

1995年1月17日午前5時46分ごろ、地球のゴーツといううなり声でマグニチュード(M) 7.3の地震がおこり、神戸の家並や高速道路をなぎ倒し、やがてまっかな炎がそんな街並みと人々を飲み込みました。死者は6434人にのぼり、関連死者は914人。

2011年3月11日午後2時46分ごろ、M9.0の巨大地震が東日本を襲い、大きな津波が家々、走っている車、人々まで陸上の多くのものを飲み込みました。さらに東電福島原子力発電所では地震と津波による停電で電気の供給がとだえ、核燃料が解け落ち、メルトダウンが起き、水素爆発が起きて大量の放射性物資が大気中にまき散らされました。

この時「原発は危険!」と私たちは自然エネルギーの「あっぶる発電所」設置に向かうようになったといっても過言ではありません。原子力発電所の事故処理は進まず多くの問題が今も残ったままです。

そして2024年1月1日、お正月の一家だんらんの楽しい時間の午後4時ごろ、能登半島をM7.6の震度の地震が襲いました。観光名所



だった輪島の朝市は焼けてしまい、仮設住宅が完成して入居した9月には大雨による洪水が起こり、その入居したばかりの住宅に泥水が侵入しました。

そんな中 昨年の8月には「南海トラフ地震注意報」が発令され海水浴場が禁止になったり、お米の買い占めが起こったといわれています。しかし、この南海トラフ地震はかならずいつか起こるといわれ続けています・

「災害は忘れたころにやってくる」といわれています。

阪神大震災30年目ということもあります、今ここで地震に対する心構え、自分でできることはどんなことか家族で、地域で考えるといいのではないのでしょうか!

会員の竹林久榮さんの資料等お借りして衛藤と2人で、2013年から環境交流センターで「あの日をわすれない!」の写真、資料等を展示し、防災への呼びかけをしてきました。写真はその一部です。30年の節目ということもあって掲載することにしました。



あっぷる発電所は順調です 2026年度でFITが終了します

NPO法人・豊中市民エネルギーの会は、学校法人蛍池学園あっぷるこども園の屋上をお借りしてあっぷるおひさま発電所（出力8.16kW）を設置し、2017年2月に稼働を開始しました。建設資金は270万円、内訳は、建設協力金140万円（一人10万円×14人、15年償還）、大阪府民共同発電所補助金100万円、寄付金30万円であった。大阪府補助金のノルマは、5年間環境教育をすることでした。

蛍池学園との設備賃貸期間は、2017年1月から2037年6月までの20年間となっています。

発電した電力を、あっぷるこども園で使っ

てもらい、余った分をFIT（固定価格買取制度）を利用して、関西電力に買い取ってもらう計画でした。10kW以下の小規模発電所の、2016年度時点の買取価格は1kWhあたり31円、買取期間は10年となっていました。

あっぷるこども園への売電価格は、当初1kWh当たり24円、関電の電力料金の値下げに合わせて2018年8月より23円になりました。

年間発電量、設備稼働率、売電総額、蛍池学園および関西電力への売電量の年度変化を表で示します。発電量は非常に安定しており、ほとんど太陽光パネルの劣化が無いことがわかります。

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
年間発電量(kWh)	11262	11319	10988	11164	10838	10992	11023	11068
設備稼働率(%)	15.88	15.57	15.37	15.66	15.16	15.25	15.39	15.23
売電総額(円)	300,773	303,084	286,932	293,708	281,602	286,000	285,657	283,900
あっぷるこども園売電量(kWh)	6907	6706	6712	6547	6792	6844	7007	7401
関西電力売電量(kWh)	4355	4492	4276	4617	4041	4143	4016	3667

※設備利用率＝発電量／（設備発電能力[8.16kW]×24時間×日数）。

表からわかることは、FIT期間10年の売電収入の合計は、設備の建設費を充分上回りそうなことです。予定を繰り上げて10年目に、建設協力金の全額を返済することも可能です。

豊中市民エネルギーの会が、「あっぷるおひさま発電所発電所」を設置できたのは、ひとえに「学校法人蛍池学園様」が自然エネルギーの利用にご理解を示し、あっぷるこども園の屋上をお貸ししていただいたからで、心から感謝申し上げます。また市民の多くの皆様がご支援してくださったことも忘れてはなりません。

FIT終了するにあたり、今後どうするかを考えるには、学校法人蛍池学園の理事長さんも交えて会員、支援者等と一緒に考えていこうと思っています。

そんなわけで、2025年度の総会で、「あっぷるおひさま発電所」の設置に向けて支援、

ご指導をいただいた、「自然エネルギー市民の会」事務局の中村庄和さんをお招きし、先達の取り組みの事例の紹介等をしていただくよう計画しています。

太陽光パネルは約30年使用できるといわれています。あと20年先まで見通せる有意義な取り組みが計画できればいいなと考えますので、次世代へのつながりも必要です。

会員の皆様、つぎへつなげる方々の参加を切にお願いいたします。

2025年度の総会案内

日 時 2025年6月7日（土）午後1時半～
場 所 とよなか男女共同参画推進センター
すてっぷ セミナー室

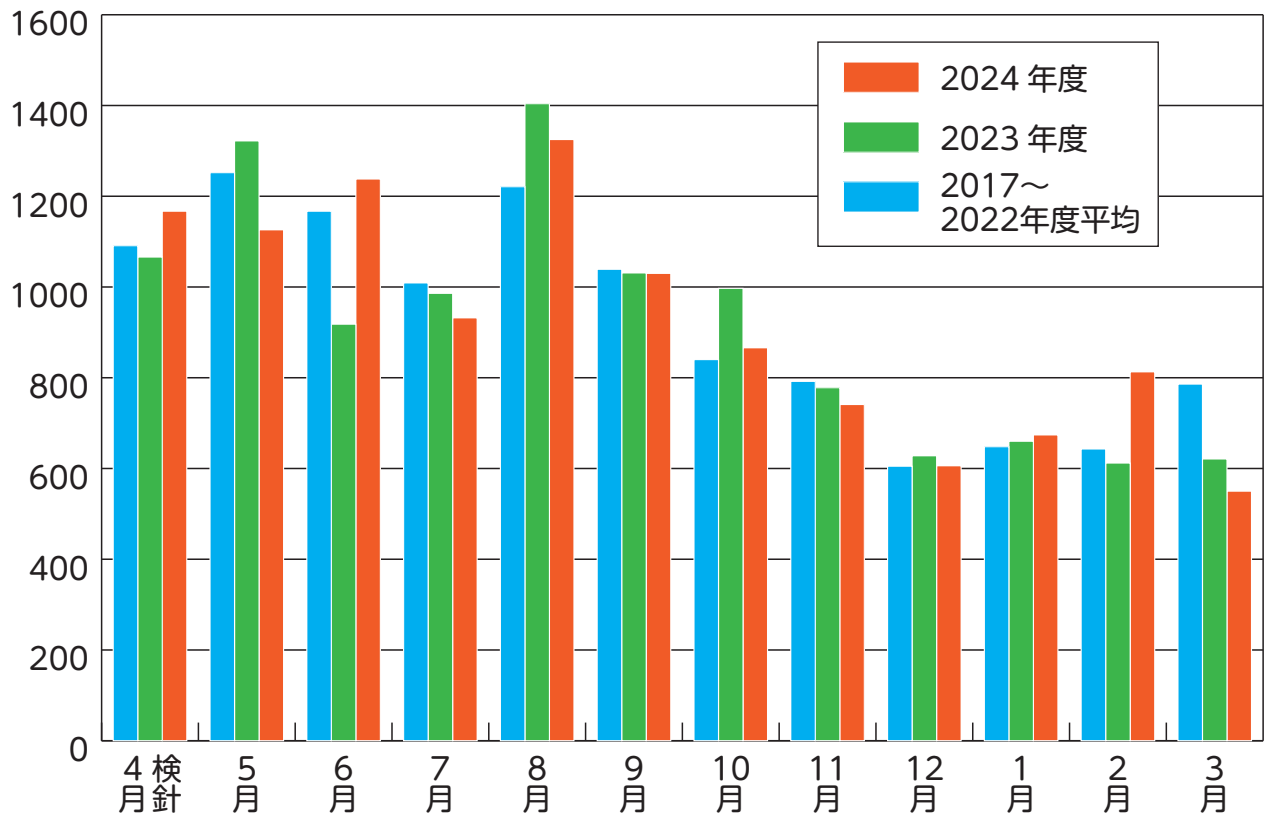
内 容 学習会

「FIT終了に向けて今後の取り組み」

講 師 自然エネルギー市民の会・中村庄和さん

※学習会が終了後総会を実施します。

2024年度の月別発電量 (kWh)



豊中市千里文化センター公民学連携事業として

2025年1月18日(土) 千里文化センターコラボで

阪神大震災30年、そして能登地震！災害対策を考えてみませんか？

「じぶん発電」でスマホを充電する知識を学ぼう！

のテーマで講座を実施しました。



公民学連携事業とは、豊中市市民協働部地域連携課東部地域係とうちの会が共催の事業で、市の広報に掲載し、問い合わせや受付を千里文化センターが担ってくれ、参加者の感想や意見もまとめていただきました。

うちの会へのアンケートには、組み立て講座を希望する方がいたので、この会の参加者

に希望を聞いて5月に組み立て講座・見学会を実施の予定です。

参加者は12人で、阪神大震災で被害にあった方が参加してくださり、すぐにうちの会員になってくださいましたし、一緒に活動しますという頼もしい方がいました。



「じぶん発電」組み立て講座参加者からのお便り

じぶん発電組立講座でお世話になりましたMです。

一番の問題は 日照時間でした。我が家は路地に挟まれた平屋建てなのに 南側に三階建の家あり、一日の大半が日陰になってしまいます。東側の日照時間は南側と大して変わらないようなのでパネルの設置場所を決められず、またコードを屋内に引き込む方法も思いつきませんでした。

そして、日照時間が短いので充電に不安があり、どのような使い方ができるのか考えてしまいました。結果、使用する器具は台所、食卓、洗面所の手元灯として使うことにしました。(使用時間が短いので充電時間が少なくても大丈夫だと考えました)

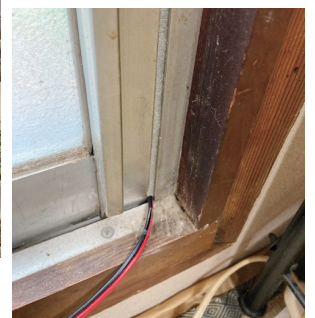
頂いたLED蛍光灯は軽いので裏面に磁石を貼り付け、使いたい所にも磁石を貼って、あちらこちらに持っていています。前から料理をする時に手元が影になり、料理がしにくいと思っていましたが、重宝しています。

室内に引き込む問題は 結局窓から普通に引き込み、できた隙間は隙間テープでふさぎましたので、鍵は かけられなくなりました

が、外側の窓を窓枠に固定し、内側のレールに棒を置けば、つかい棒になり窓は開かない。と思いつきました。

どうしてもコードを延長必要があったのですが 講座で頂いた資材一覧が詳しく書いて下さっていたので、とても助かりました。

値段が書いてあったので予算の不安がなく、また写真が入っていたので確認ができて安心できました。ありがとうございました。



特定非営利活動法人・豊中市民エネルギーの会
連絡先 560-0034 豊中市蛍池南町3-2-11-105
電話 06-6843-3568 (FAXも同じ)
メール masumi-e@hotmail.co.jp
郵便振替 口座記号番号 00920-2-332550
加入者名 豊中市民エネルギーの会